

会 議 録

会議名		令和7年度 第2回小山地区まちづくり会議		
事務局 (担当課)		中央区役所中央6地区まちづくりセンター 電話042-707-7049 (直通)		
開催日時		令和7年7月1日 (火) 19時00分～21時35分		
開催場所		小山公民館 大会議室		
出席者	委 員	19人 (別紙のとおり)		
	その他	3人 (こども・若者政策課総括副主幹、相模原駅周辺まちづくり課長、中央区役所地域振興課 防災訓練専門アドバイザー)		
	事務局等	3人 (中央6地区まちづくりセンター所長ほか2人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 情報提供 (1) 相模原市子育て応援条例の制定について (説明：こども・若者政策課) (2) 相模原駅北口地区土地利用計画 (案) について (説明：相模原駅周辺まちづくり課) 4 議 題 (1) 災害時要援護者への支援や取組事例について ・自治会活動における災害時要援護者支援について (説明：中央区役所地域振興課 (※防災訓練専門アドバイザー)) ・自主防災組織の役割と市災害時要援護者支援 (避難行動要支援者名簿) 及び市内取組事例について (説明：中央6地区まちづくりセンター) (2) 中央区観光振興プログラムにおける区内風景の記録写真に係る観測地点の選定について 5 閉 会		

議 事 録

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、△は市担当課の発言、●は事務局の発言)

1 開 会

2 会長あいさつ

入谷会長のあいさつにより開会した。

3 情報提供

(1) 相模原市子育て応援条例の制定について

令和7年4月1日に施行された当条例について、こども・若者政策課から資料に沿って説明が行われた。

<主な意見・質疑>

○子育てにやさしいまちとして「ふわふわドーム」や「ロングすべり台」が検討されているが、昨今暑くて外で遊ぶことが難しい。日陰をつくるなど、熱中症や炎天下の対策をしていただければ公園に行ける機会も増えるため、検討していただきたい。

⇒△おっしゃるとおりである。ご意見を踏まえて設置方法について検討する。また、市としては、屋内の遊び場を設置する必要性も認識しており、設置に向けた検討を進めているほか、民間企業の取組ではあるが、古淵にあるイオン相模原店では店舗の一部をリニューアルし、子どもの遊び場を設置する予定である。

○地区社会福祉協議会において実施しているこども食堂と無料学習支援について、当条例との関連性を伺いたい。

⇒△各種団体において、さまざまな子育て支援をいただいていることを承知している。当条例はそのような団体も含め、子育てに対する機運醸成を高めることを目的としている。

(2) 相模原駅北口地区土地利用計画（案）について

当計画案の概要及び令和7年7月1日から開始するパブリックコメントについて、相模原駅周辺まちづくり課から資料に沿って説明が行われた。

<主な意見・質疑>

○当地区の土地利用について、建物の高さ制限や米軍からの規制はあるのか。ない場合はなぜ建物の基本が中層とされているのか。高層マンションはできないのか。

⇒△高さ制限については、法律上で用途区域が決まっていないため、これから国や米軍と協議する。米軍からの規制については、既に返還された土地のため

かからないと思うが、座間キャンプのようにドローンの飛行が禁止される等一部規制がかかる可能性もある。建物の基本を中層としているのは、小山地区の安藤委員にも出席いただいている「相模原駅北口地区土地利用計画検討会議」の意見を反映したものである。基本が中層という意味合いのため、民間企業の意向により高層マンションができる可能性もあり得る。

○地下の活用について、当計画案では全く示されていない。土地利用のイメージ図上では、駐車場が地上に配置されているが、地下に配置しないのか。小田急多摩線は地下に入ってくると想定されているので、例えば地下に商店街を作れば、そこで利益が生まれ小田急多摩線の延伸の可能性も高まるかもしれない。また、一部の都市ではごみを地下で処理していると聞いたことがある。今後地下についてさまざまな検討ができるのではないかな。

⇒△駐車場を地上に配置しているのは、地下の場合は一般的に地上の3倍程度整備費が掛かると言われているからであり、地下に設置された場合は、単純に考えると駐車料金も3倍になることもありあえる。なお、土地は民間企業に売り払った上で民間企業が各種機能を導入するため、民間企業がこの土地の価値があると思えば、駐車場が地下になる可能性もある。

また、ディスポーザーであれば、マンションの地下に導入されることはあり得ることだと思う。

○令和5年度に小山地区まちづくり会議で検討し市へ提案させていただいた、相模原駅北口地区土地利用「ケース小山」について伺いたい。「ケース小山」ではイメージ図の駐車場の位置に地域型ホールを配置したが、それが当計画案には反映されていない。この位置に配置した理由は、向陽小学校の小学校の生徒数が増えてきているため、将来的に学校施設の一機能として地域型ホールを使用していくためである。

⇒△地域型ホールについては、「交流にぎわい機能」の一例として当計画案の本編に示させていただいている。ただし、ポイントとしては、先ほどからお伝えしているとおり、民間企業が各機能を導入していくということである。

○当計画案は現状では夢がない。もっと最先端なものや、「あそこに住みたい」と思えるものが欲しい。

⇒△当計画案は完成形ではないので、皆さんの意見を伺いながら良いものに変えていきたい。そして、相模原の土地の価値をあげていきたいと思っている。よく相模原市は何もないと言われているが、緑も綺麗な水もある。これらの価値を前面にもっていき最先端の技術を使いどう見せていくかが重要であり、それを本まちづくりのコンセプト「グリーン×ライフ×イノベーションシティ」としている。

○当計画案にかかるオープンハウスについて、相模原伊ッツで実施するのは16時から19時までの1回のみである。小山地区は地元であるため、10時から

1 5時までの昼の時間帯にも実施できないのか。

⇒△16時から実施する理由としては、昼間は相模原駅に人が少なく夕方以降の人が戻ってくる時間帯に実施することにしたためであるので、ご理解をいただきたい。また、昼の時間帯においては人が集まる市役所本庁舎で実施する。実施回数については中央区では2回で、他区を含めると計5回実施する。オープンハウスは基本的には3回の実施が多いが、今回は回数を増やしている。

○今後当地区に新しい住宅ができると向陽小学校の生徒数が飽和状態になり、例えば向陽小学校ではなく、近隣の小学校に通わなければならない生徒が出てくるのではないのか。

⇒△当地区が開発される頃には若い世代が減る推計であるため、新しい住宅ができて通学区域には影響しない見込みである。必要に応じて担当部署と協議していく。

○当地区のイメージ図が示されたのは、今回で2回目である。1回目は以前の市長の時でおおよそ10年前であったと記憶しているが、なぜこんなにも検討に時間が掛かるのか。今後、また市長が変わる度に決定事項が変わってしまうことが心配である。

⇒△検討に時間が掛かっていることについては率直にお詫びする。ただし、土地利用計画図としてはこのタイミングで決定し、それを財務省に提出するため、一定のまちづくりの方向性は決まってくるものと考えている。

○今後のスケジュールについて示されていない。

⇒△当計画案の本編や概要版に示させていただいている。

○相模原駅周辺に2つの踏切があり日々渋滞が発生している。その対策は検討しているのか。

⇒△今後、相模原踏切と南北道路の接続等、さまざまな道路整備を検討していく。

○当計画案のような内容では小田急多摩線は延伸されないと思う。先ほど情報提供(1)で説明があった子育て応援条例は、素晴らしい施策である。その施策のように若い人が魅力を感じるようなまちづくりにしていただきたい。また、過去のまちづくり懇談会において、相模原駅北口と南口の一帯化について懇談した経過があるが、道路整備に関しては「できない」ばかりの回答であった。先ほど道路の接続を検討するとおっしゃっていたが本当にできるのか。

⇒△道路については当地区のアクセス性を高めるためにも重要であり、小田急多摩線を延伸させるためには、道路の接続は必要であると考えている。道路を接続しないとまちとして活性化はしないし、土地の価値も上がっていかない。接続については、今後立体交差化について検討していく。

○当地区内には車を通行させないとのことであるが、なぜ駐車場が配置されているのか。また、周辺道路が今以上に拡充されないように思える。先ほど意見があったように今であっても踏切付近を含め渋滞が発生している状況であるの

に、道路整備がされないと今後当地区が発展した際にさらなる渋滞が想定され危険である。

⇒△当地区には、駐車場は設置するが道路として車を通行させないということである。道路については、整備中の南多摩尾根幹線その他、宮下横山台線の4車線化も含めて今後検討していく。

○昨今 PFAS が問題となっているが、当地区においてその調査をされたか。また、10年ほど前に公園都市の整備について市へ提案したことがあるが、維持管理費が工面できない等の理由で実現できないと回答があった。当計画案は「グリーン」がテーマとなっているが、以前からどのように方針が変わったのか。さらに、「防災、子ども、高齢者に強いまち」としては、どのように考えているのか。

⇒△土地については、米軍から返還された際に一度調査を行い一定程度の安全性はあると承知している。詳細は把握していないので、今後確認する。公園、緑地については、当計画案の本編に示しており、民間活力の活用として「Park-PFI」等の整備手法を検討している。これは、民間企業が飲食等の収益施設を設置・管理する制度で、近年、都心等さまざまなところで実施されている。また、防災に強いまち等もちろん目指していく。

4 議 題

(1) 災害時要援護者への支援や取組事例について

中央区役所地域振興課（防災訓練専門アドバイザー）及び中央6地区まちづくりセンターからそれぞれ資料に沿って説明が行われた。

- ・自治会活動における災害時要援護者支援について

（説明：中央区役所地域振興課（※防災訓練専門アドバイザー））

- ・自主防災組織の役割と市災害時要援護者支援（避難行動要支援者名簿）及び市内取組事例について

（説明：中央6地区まちづくりセンター）

<主な意見・質疑>

特になし。

(2) 中央区観光振興プログラムにおける区内風景の記録写真に係る観測地点の選定について

入谷会長から資料に沿って、観測地点選定に係る委員アンケート結果を報告するとともに、小山地区の観測地点2か所について意見を伺った。

<主な意見・質疑>

○特に意見が出ない場合は、回答が多かった「相模総合補給廠」を選定すること

を提案する。米軍から返還された土地のため、今後大きく変化が見られる場所である。

⇒○1か所は相模総合補給廠で、もう1か所は別の場所がよい。

○宮下の工場地帯も新しい建物が建設されており興味深い。

○東京ガスや住宅公園跡地区が今後どのように開発されていくのか気になる。

○撮影方法として、向陽小学校の信号から左手に相模原スポーツ・レクリエーションパーク、右手に相模総合補給廠を撮影すると変わりゆく様子が広く撮影できると思う。

⇒○平地から撮影すると、一部しか映らないのではないかと。高所からの撮影が必要である。

⇒○相模総合補給廠を撮影する場合は、相模原駅の駐車場の屋上であれば、広範囲を記録していくことができると思う。

⇒○同様に、小山公民館の屋上から東京ガス方面を撮影すると、広範囲が記録できるのではないかと。しかし、撮影した写真を見てみないとその観測地点で良いとは言い切れない。

⇒●次回まちづくり会議での検討では、観測地点の提出期限に間に合わないため、メールや通知等で観測地点（案）の写真を用いて確認を依頼する。

<結果>

観測地点（案）は次の2か所とする。また、観測地点（案）を事務局において撮影し、委員に対してメールまたは通知により確認することとする。

	観測地点（案）	撮影場所
①	相模総合補給廠	相模原駅北口屋上
②	東京ガス・住宅公園跡地方面	小山公民館屋上

5 閉 会

星副会長のあいさつにより閉会した。

以 上

小山地区まちづくり会議委員出欠席名簿

令和7年7月1日開催

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	入谷 利郎	小山地区自治会連合会	会 長	○
2	加治 左近	宮下自治会		○
3	徳永 三朗	すすきの自治会		○
4	亀田 浩代	すすきの向陽自治会		○
5	若井 一朗	向陽町自治会		○
6	丸山 和加恵	久保原自治会		○
7	武井 弘吉	自治会法人 氷川町自治会		欠席
8	渡辺 ゆかり	相模原駅前自治会		○
9	阿部 利和	東第一自治会		○
10	佐藤 薫	丸山自治会		欠席
11	星 清次	小山公民館	副会長	○
12	川口 久美	小山公民館		○
13	宍戸 佳子	小山公民館利用者懇談会		○
14	長谷川 澄男	小山地区社会福祉協議会	副会長	○
15	遠藤 秀雄	小山地区社会福祉協議会		○
16	小池 美恵子	小山地区民生委員児童委員協議会		○
17	藤原 幸恵	青少年健全育成協議会		○
18	永山 康雄	防犯指導員		○
19	加藤 秀子	相模原交通安全協会小山支部		○
20	大谷 春枝	向陽小学校 P T A		欠席
21	中村 悠一	小山中学校 P T A		○
22	中里 和男	相模原西商店街協同組合		欠席
23	小田 信之	小山地域包括支援センター		○
24		学識経験者		